



# 栄小学校だより

令和5年6月29日(木)

No.16

## ○ふれあい班活動

6月の最終週から7月の第1週の掃除は、ふれあい班(縦割り班)活動のひとつとして、ふれあい班にて掃除を行っています。普段は、各学年で持ち場が決まっていますが、今回の掃除は、ふれあい班での分担です。

6年生が中心となって各掃除場所での仕事分担を1年生から6年生の班員で決めて掃除をします。最初は、慣れていない場所ですので少し混乱していましたが、5年・6年の上級生が率先して掃除に取り組み、気がつけば班員みんなが一生懸命に掃除をしていました。栄小学校では、「異学年交流」を通して、子どもたちが主体的に取り組み、「教え、教えられ活動」からともに成長する取り組みを行っています。



## ○国際理解講座(5年)

6月27日(火)の5限目に5年生が国際理解講座を受けました。この講座は、6月16日~18日にかけて、三重県志摩市で開催された「G7 三重・志摩市 交通大臣会合」を記念して行われた講座です。栄小学校での授業内容は、「ドイツ」でした。普段、ヨーロッパの国については、なかなか学習する機会がありませんが、ドイツ人の講師の先生からドイツの国の仕組みや気候、また、食事や生活習慣などを教えていただきました。

「子どもたちからは様々な質問や意見が出て、とても明るく楽しい授業ができた」と講師の先生からの感想でした。



## ○朗読劇とICT活用(1年)

6月28日(水)の国語の授業で1年生が「おおきなかぶ」の朗読劇を行いました。

3つのグループごとに配役を決めての朗読劇です。おじいさんやおばあさんなどの配役やナレーターなども感情豊かに表現できました。

5限目には、ICT機器(chromebook)を使っでの学習です。自分が作成した図を協働学習支援ツール「オクリンク」を使ってクラスで共有します。

子どもたちは、その公開された作品を見て新しい作品作りへステップアップします。

1年生ながら、ICT機器を操作している姿を見て、時代の変化に我ながら驚いています。



## 【7月の予定】

- 7月 3日(月) クラブ活動  
4日(火) 出前授業ハンドボール(6年・56限)  
5日(水) 児童集会(5限)  
6日(木) 読み聞かせボランティア(4年) 公民館見学(3年・23限)  
7日(金) PTA 役員会19:00~  
11日(火) CTL 夏の交通安全運動(~20日)  
12日(水) 着衣水泳(5年・2限, 6年・3限) Jアラート訓練  
13日(木) 読み聞かせボランティア(3年) 夢工房(ひまわり・1限)  
大掃除13:10~13:40  
14日(金) スクールカウンセラー来校日 学校運営協議会19:00~  
17日(祝・月) 海の日  
18日(火) 給食終了 4限授業13:30下校 あゆみ渡し14:00~  
19日(水) 2限授業10:30下校【給食なし】 あゆみ渡し11:00~  
20日(木) 終業式3限授業11:30下校【給食なし】  
21日(金) 算数教室  
24日(月) 算数教室  
25日(火) 算数教室  
※8月授業日 8月25日(金) 午前中

## ☆特集 保護者に向けた 「親塾シリーズ4」

### 子どもを「伸ばす親」の共通点5

#### 1. 家族で腹を割って「我が家の教育方針」を決める親

家族で話し合い、「子どもの知的好奇心を刺激するような言動を常に心掛けている。今後とも、我が子が自身の頭で考え、判断できる力を大切にしながら育てていきたい」といった具体的かつ熱意の込められたメッセージを子どもに送ってほしい。

そのために家族はこういうサポートを惜しまないという、家族の一致した共同目標があるご家庭は子どもの将来が違ってきます。

#### 2. 小さな長所を発見し褒める親

親は子どものためと思いつつ「短所を矯正」することに力を入れがちですが、生きるに当たってそれはさほど重要なことではありません。なぜなら、短所は長所の裏返しだからです。

子どもの長所、あるいは得意なことを瞬時に褒めて、的確にアドバイスする。そのことで子ども自身の「自信」に繋がるように「洗脳」していくのは親の務めだと考えます。「自己肯定感」を持って成長できた子どもは間違いなく幸せになります。

#### 3. 「先送り」をしない親

子どもが世の中で「初めて出会うもの」との瞬間を見逃さないことが重要です。

めんどうだから後でいいやと先送りをしたとするならば、我が子が長じたときに矯正しようとしても膨大な手間と時間がかかるだけである。

初めて出会う鉛筆、初めて出会う提出物の期限、初めて出会うPC……。ありとあらゆる我が子が出会う「初めまして」に心を配る。これが我が子の小学校6年生までにきちんとできているご家庭には問題が少ないです。

#### 4. 「人の役に立つ」素晴らしさを教えられる親

人間は誰かのために何かをやれるということに幸せを感じる生き物です。それゆえ、我が子が幼いころより「この仕事は世の中にこう役立っている」という視点で解説してあげる家庭に育つと職業観が自然とついてきます。もちろん親自身が社会に貢献し、努力している一社会人(専業主婦ならば家庭に貢献している)であるという背中を見せ続けることはとても大事なことです。

#### 5. 打たれ強い子に育てられる親

先行き不透明な世の中で必要なのは「打たれ強さ」です。

親は子どもが幼いときから、失敗させることを恐れない。失敗したことを「経験値が増えた」と言って逆に喜べる。どうしようもない失敗をしたときこそ「(あなたは)大丈夫」と言って、動じない最後の砦となれるならば、その子は「こころ一番!」のときには粘り強さを発揮できる人間になっています。